

プロが教えるイワナ釣り!

朝日自然塾3「プロが教えるイワナ釣り」は、平成27年7月11日(土)、晴天の中、山形市、天童市、白鷹町、鶴岡市内の小学生親子23名が参加して、自然豊かな伝説のタキタロウの下流鶴岡市大鳥で開催しました。

集合場所の当センター前で受付を行った後、鶴岡市朝日庁舎提供のイベントバス等で、釣り場の東大鳥川泡滝ダムに向かいました。

現地での開会式では、当センターの加藤所長が「イワナが生息するには森林環境がとても大切です。ここは『朝日山地森林生態系保護地域』に設定されていて、私たちは地域の皆さんと一緒に保全管理の取組を行なっています。今日は、この豊かな自然と、釣りを大いに満喫して、楽しい一日にして下さい。」とあいさつがあり、その後、三つの班に分かれ、釣り場に移動しました。



開会式

まず、山形県溪流釣り協会の講師の方からイワナ釣りについての安全な釣り方や仕掛けの流し方、魚信の合わせ方などの指導を受け、敏感なイワナを驚かせないように緊張しながら、静かに準備を始めました。釣りが初めての親子は、仕掛けの付け方やブドウ虫の付け方など講師からやさしく指導を受けていました。

釣り場所では、子供たちから優先に釣りを始めることにしました。大人達は、ジッと子供達の後ろから見守っていましたが、初めてイワナ釣りをする子供を見かねて思わず子供と一緒に竿を握る微笑ましい親御さんも見られました。

しばらく釣れない状態が続いていましたが、本日始めてとなるイワナをお子さんが釣り上げると周りの大人達からも大きな歓声上がり、子供達は益々真剣なまなざしで仕掛けを投入していました。



親子で仕掛けを準備中



みごとイワナをゲット



みなさん真剣です

また、川の深みに入り長靴の中に水が入ってしまった子供もいましたが、そのことは気にもせず繰り返し仕掛けを川に流していました。

子供達が仕掛け流しに慣れてきた頃、大人たちの釣りも解禁となり、持参した竿で挑戦したり、親子で一緒に竿を使ったりして、大人も真剣にイワナ釣りに取り組んでいました。



あっという間に釣りの予定時間が過ぎてしまい、釣れた親子も釣れなかった親子も、名残惜しそうに釣り場を後にし、イベントバス等でタキタロウ館へ移動。

タキタロウ館では、加藤所長が自ら焼いて準備したイワナの塩焼きが、参加者全員に振る舞われ、イワナに舌鼓を打ちながらの楽しそうな昼食風景があちらこちらに広がりました。



イワナの塩焼き中 熱々で美味しい！

午後は、①イワナのさばき方体験。②プロが教えるイワナに関するおきの話。③毛針のつくり方体験。の三つの教室に分かれ、班単位で順番に回りながら、それぞれ講師から説明や手ほどき、また、豊富な釣りの経験談を聞く等、どの親子からも興味深そうに真剣に学んでいる様子うかがえました。



①イワナのさばき方体験



②プロが教えるイワナに関するとおきの話



③毛針の作り方体験

予定した終了時間を少しオーバーしてしまうほど楽しい勉強会が終わり、アンケートには「楽しかった」「また次回も参加したい」「リベンジしたい」など回答してくれていました。

最後は、タキタロウ館前で記念撮影。再会を約束しながら無事終了しました。



今回の朝日自然塾3「プロが教えるイワナ釣り」は、山形県溪流釣り協議会講師の鈴木正さん、渡辺和春さん、山中康之さん、斎藤徹さん。また、イベントバスを提供いただいた地元鶴岡市朝日庁舎とサポートスタッフの佐藤一生さん。さらには、赤川漁協及びタキタロウ館のみなさんのご協力をいただきました。大変ありがとうございました。